

「手作りで音を楽しもう ―環境にやさしい夏休み親子向けイベント―」

第1技術委員会 土肥哲也
小林理学研究所

第1技術委員会では、環境に関する身近なテーマである音に興味をもってもらいたいことを目的として小学生向けのイベントを行いました。この企画は、毎年夏休みに実施しているもので、2016年度は川崎駅前の東芝未来科学館で開催しました。内容は、音の原理や仕組みの説明、工作、ゲームなどで、身近な「音」の性質を楽しみながら知ってもらおう体験型イベントです。

2016度は、7月27日の午後開催し、小学校1年生～4年生の親子50名にご参加いただきました。1時間目の「音の話」では、音ってなんだろう？をテーマに、音の高さや、音の速さなどの音の性質を体感してもらいました。2時間目の「工作」では、アフリカの民族楽器であるボンゴラピアノを各自製作し、音が出る仕組みや、音程の調整の仕方を学ぶことで、自分で楽器を作る楽しさを体験してもらいました。3時間目は、一方方向にしか音が伝わらない超音波を用いた指向性スピーカーや、共鳴パイプを使った楽器演奏を体験してもらいました。そして、最後の時間は、身のまわりの音の大きさをビンゴの数字に置き換えた音ビンゴゲームを実施しました。騒音計に向かって目標の音の大きさになるように声を出す子供たちは真剣そのものでした。

2009年度から始めた本イベントは、今回で8年目を迎えました。環境・機械工学の普及と啓蒙の一助になったものと考え、今後も企業との連携体制のもと、地域密着事業として発展継続させていきたいと考えています。

最後に、機械工学振興事業資金より助成を頂いたこと、また、ご協力頂いた東芝科学館、環境工学部門所属（東芝、千代田化工、中央大学、山梨大学、東海大学）関係者各位に感謝いたします。

